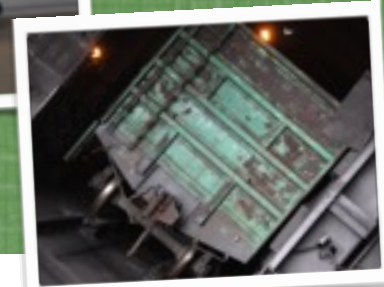


ロシア視察 自民党日本海資源開発促進議員連盟主催

2013年7月30日～8月3日



日本海資源開発促進議員連盟では去る7月30日から4泊5日の行程でロシア極東地方のウラジオストク及びハバロフスクを視察してきました。メンバーは県議が16名（自民党13名と無所属3名）及び国会議員5名、聖籠町長ほか、県市の職員、民間企業からの総勢35名という大型視察団となりました。主な視察の目的はロシア極東におけるエネルギー供給の実態を視察すること、関係機関との交流促進、及びAPEC後の現地状況視察などでした。また、議連の設立目的の「新潟県がエネルギー供給基地になることを目指す」ために、この規模・構成で視察を実施することによって、ロシアのみならず東京の政治の中枢に対しても、新潟県の意気込みをアピールする狙いもありました。そして自民党の4役の一人でもある河村健夫衆議院議員（選挙対策委員長、天然ガスパイプライン推進議連会長）、また片山さつき参議院議員（総務省政務官、資源確保戦略推進議連事務局長）も参加され、否が応でも団の志気は上がることになりました。



ウラジオストクでは、ナホトカ、ポストーチヌイ、コジミノの各港と石油、石炭の積み出し施設・ウラジオ商業港の視察、また沿海州地方議会、極東連邦大学、日本領事館、ソラーズ物産、日本センター、新潟県アンテナショップなどを訪問。ハバロフスクでは、地方議会、極東発展省、日本領事館を訪問し情報交換と懇談の場を持ちました。これらの視察・訪問箇所の詳細は別途報告いたします。



さて、両市との往復には久方ぶりに飛んだ直行便を利用しました。新潟からウラジオストクまでの飛行時間は僅か1時間25分、ハバロフスクから新潟までは1時間40分。ロシア極東が新潟から実に近いこと、そして極東との定期便の復活が双方の交流に欠かせないことを実感する旅でもありました。また、ウラジオストクからハバロフスクまでは、シベリア鉄道の夜行寝台車を利用して11時間。列車の旅は快適で楽しく、タイトな視察日程のなかでひと時の息抜きとなりました。最終日には、ハバロフスク空港へ向かう途中に日本人墓地に立ち寄り、ご冥福をお祈りすることも出来ました。

今回の視察の実施にあたってご協力いただいたあらゆる方々に感謝申し上げる次第です。

